

## 第 1 回手賀沼水循環回復行動推進会議 議事録（概要）

日 時：平成 15 年 10 月 17 日（金） 午後 1 時 30 分～ 4 時

場 所：手賀沼親水広場（我孫子市高野山）

出席者：別紙のとおり

あいさつ（森山茂男千葉県環境生活部理事）

第 1 回目の会議開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。本日は御多忙のところご出席いただき、また推進会議委員の就任について快くご了承いただきありがとうございます。

手賀沼は、これまでいろいろな対策を講じてきたことによって、ここ数年、水質が改善してきており、特に平成 12 年度から北千葉導水事業が本格稼働したことによって、平成 14 年度の COD 年平均値は 8.2mg/l と大幅に改善されました。13 年度には、27 年間連続の湖沼水質ワースト 1 の座を返上することができました。

しかしながら環境基準の達成にはほど遠く、本来的な水質の改善には汚濁負荷の削減だけではなく、水循環の回復というような視点からの総合的な水環境の保全対策が必要であり、第 4 期の湖沼水質保全計画では、「水循環回復のための計画を策定する」とされました。

このため、県では環境省が平成 11 年度から 3 年間実施した基礎調査の結果を踏まえて、昨年度いろいろな方々のご意見等をいただきながら、計画策定について検討し、今年 7 月 16 日に「手賀沼水循環回復行動計画」として策定しました。

この計画に基づいて様々な取組を進めていくためには、流域に関係する行政、住民、NPO、事業者などが役割を分担し、協働・連携して取り組んでいくことが非常に重要です。そのため、ここに皆様の御参画のもとに「推進会議」を設置させていただきました。

この会議では、取組の進捗状況を点検しながら、推進の方策などについて多角的な検討を行い、さらに次の取組に発展させ、より充実させていきたいと考えています。また会議の内容については原則公開とし、ホームページなどを通じて一般の方々の御意見や御提案をいただき、地域が一体となり、一人ひとりが主役となって行動できるような条件・下地づくりをしていきたいと考えています。

本日は第 1 回目の会議ということで、地域の方々との協働取組を中心に、今後の取組方策などをご検討いただきたいと考えています。忌憚のないご意見をいただくことをお願いし、開会のあいさつといたします。

構成員の紹介

事務局から、推進会議設置要領の名簿により、各構成員（代理出席者を含む）を紹介。

会長の選出

事務局から、会長に行動計画検討委員会の委員長であった佐倉千葉大学理学部教授を提案し、承認される。

会長あいさつ（佐倉保夫千葉大学理学部教授）

佐倉です。大学では地球科学の水文学の中で水循環を勉強しています。環境省が平成13年から3年間、水循環回復の検討をしていた時から関わり、昨年度県の計画検討会で委員として参加してきました。今回、この推進会議の会長を務めさせていただきます。

今までは計画を策定するということでしたが、これからは健全な水循環を図りそれを推進するという段階に入ってきています。手賀沼がすばらしい環境を回復できるようご審議していただけたらと思います。皆様のご協力をよろしくお願いします。

議 事（佐倉会長が議長となり進行）

1 手賀沼水循環回復行動計画について

事務局から、「手賀沼水循環回復行動計画」（資料1）により、計画策定の経緯及び計画の概要について説明。

（質疑等）

・豊嶋我孫子市環境生活部長

3点確認したい。

今後、特に湧水の保全などの取組について、どのように進行管理していくのか。

63項目の行動メニューには多数の行政施策が含まれるが、その進行管理はどのように考えているか。推進会議だけでは対応しきれないのではないか。生物生息環境の保全の具体策について、どのように進めていくのか。

・事務局

湧水については、市民参加による協働の調査を通じて、実態を把握していきたいと考えているが、必要に応じてさらに詳しい調査の実施も検討していきたい。

行政機関や関係団体の事業の計画・進捗状況を、毎年度、定期的に調査・整理し、それをもとに取組をどう進めていくのか、この会議を通じて検討をお願いしたい。また、行政施策がかなりの部分を占めることから、行政機関による事前の調整の場も必要と考えている。ただし、今のところ行政部会の設置までは考えていない。

生物生息環境の保全・再生の取組は、かなり難しいものと認識しているが、取組の目標にもあるように少しずつ取組の芽生えも見えつつある。これらの取組を着実に進めながら、ほかの場にも展開し充実させていきたい。

そのようなことを是非この会議の場で、情報交換、意見交換しながら進めていければと考えている。

・豊嶋我孫子市環境生活部長

60数項目にわたる全体の進行管理は、この推進会議が行うのか。

- ・事務局

推進会議が進行管理する。

- ・佐倉会長

具体的な検討はワーキング等で検討することもあるが、最終的にはこの推進会議で確認していくことになる。

- ・小林節子氏（環境イーハトープの会）

今まではあまりに水が汚かったため、水質の改善に集中して対策をとってきた。平成 12 年度から北千葉導水が入り COD は 10mg/l 以下となったが、これで十分とはいえない。これからの手賀沼にどういうことを望むのか。川のようになっていないわけではないし、漁業、農業用水との関係、木下を通じての上水への影響、生態系、水質、費用などを勘案し、今後どこまで北千葉導水でやっていくのかモニタリング委員会で話し合われていくこととなるのではないかと。

水循環の取組では北千葉導水と役割を分担し、生物生息環境の保全ということにお金と人の力を注いでいく必要がある。

## 2 手賀沼水循環回復行動推進会議について

事務局から、資料 2-1 及び資料 2-2 により、推進会議の役割、会議の運営の基本的な考え方について説明。

また、県・関係市町と関係団体の長で構成する「手賀沼水質浄化対策協議会」と「推進会議」の関係については、別個の組織と位置づけるが、推進会議の検討結果等については、協議会へ報告し確認してもらうこととする旨を説明。

## 4 平成 15 年度事業計画について

事務局から、資料 3 により関係行政機関・団体による水循環回復行動計画に関連する事業及び数値等目標を掲げた取組の 15 年度の計画について説明。なお、今後の計画に基づく取組の進捗状況については、資料 3 の形式で整理し進捗管理していくことを説明。

### （質疑等）

- ・松戸市下藤審議監

この計画では、水環境だけではなく、例えばメダカなどの生物と田・里山・川の関係なども見ていく必要がある。農業用排水路のコンクリート化により水の流れは良くなったが、生物が川から田圃に行くことがなくなったというような問題もある。肥料の問題なども含め、農業と生物の共存に関わる取組についても施策に取り込んでいくことが必要である。

- ・事務局

そのような取組を、地域としてどのように展開していったらいいのか、どういう接点を見つけながら取り組んでいくのか、この会議の場で方向付けしても

らい、関係者が協働して進めていく形を取って行ければと考えている。

現状でも、関係機関でそれぞれ意識的に取り組んでいる部分もあり、それらの取組を集積・整理し、全体的な方向付けの中でどう進めていくか検討していきたい。

農業用排水路のコンクリート化の問題については、農業経営の合理化追求と環境の保全をどのように考えるか、具体的にどういう形を取れば互いに共存できるのかの方策について、この会議の場で検討をお願いしたい。

- ・佐倉会長

北千葉導水の役割・国交省との関係、農業の問題など、現在の計画ではまだ十分触れられていない課題については、この会議の場で議論しそれを計画に組み込んでいくことが必要と思う。

- ・下藤松戸市審議監

現計画では生物循環に関わる取組が少ない印象がある。生物の保全に関わる取組を充実させることが必要だ。

- ・佐倉会長

健全な水循環の回復に伴って生態環境も回復するはずという考えが根本にあり、含まれていないということはないと思う。水循環を強調しすぎると生態系保全の意味合いが薄くなるというきらいもあり、その部分をもう少し強調する必要もあるかと思う。

- ・豊嶋我孫子市環境生活部長

我孫子市では、岡発戸・都部周辺の谷津ミュージアムづくり、すなわち、谷津田、斜面林、台地上の畑を保全しながら手賀沼に注ぐ水の浄化と水循環の回復を図る取組を進めている。先日も我孫子市では観測史上初めてというような大雨が降ったが、市民の生命と財産を守るための雨水排水路として農業用排水路も使用され、その整備をしないと圃場としても荒れてしまうという実状もある。

ミュージアムづくりの現場の中に都市排水路があり、多自然型河川改修モデル事業として約 100 m 改修する予定がある。ここもコンクリートは使うが、表面は土盛りをし、自然と調和した工法をとることを現在検討している。我孫子市の谷津田はほとんど休耕田や放棄地となっており、これらを昭和 30 年代の農村風景に復活させようとしているが、農業と環境、利水・治水と環境、災害などのいろいろな問題が関わってきている。これらを全体的にどうしていくのが議論していくことも重要である。

また、北千葉導水により利根川の水を注水だけでは、環境基準は達成できないという問題に対してどのように対応していくか、是非議論していきたい。

- ・塩谷勉氏（ふれあい手賀沼の会）

農業用水は年間約 3,000 万トン揚水しているが、蒸発散量を除き相当量は地

下浸透し浅層地下水の涵養に役立っている。地下浸透量の確保には水田の保存・保全が重要である。

また、用排水路の三面張りについては、経済的な問題が大きい。単純に土水路にして自然を回復すればよいということにはならない。経済的なことも含めてきちんと比較して議論し検討することが必要と思う。

・川俣忠紀氏（古利根の自然を守る会）

単独から合併処理浄化槽に転換する事業についてだが、広い敷地を必要とし現実的には困難な場合もある。高度処理型合併処理浄化槽を普及する取組とともに、合併に転換できないようなところについては、高度処理型コミュニティプラントなどが考えられないか。

・佐倉会長

個別の問題に入ってきたが、そのようなことも今後検討していくということとしたい。63項目の行動メニュー以外の取組などについてはどうか。

・小林節子氏

水質改善の取組も含め、これまでの取組内容を固定せず見直していく必要がある。個人的には、北千葉導水事業も最終目標は手賀沼に水草など生物の回復の場を創っていくことにあると思っている。それにより沈水植物が出てくれば鳥にも魚にも全体的に正常な生態系が回復することとなる。ホテイアオイの植栽や筏栽培などのメニューもあるが、すべてがいいというわけではない。目的に応じて事業を精査し、選択し重点的に実行していくことが必要と思う。

親水施設の整備にしても、手賀沼ビオトープの時も議論があったが、どこでも人が入れることがいいわけではない。生物の生息場と人間が遊べる場所は区別することも必要。メニューについてはもっと精査する必要がある。

農業については、県でもエコ農業を進めているが、地産地消という生産者と消費者が結びついた農業施策の推進など、広く展開していくことが必要と思う。

・佐倉会長

全体として行動メニューもこれでいいということではなく、目的に応じて変えていく、あるいはもう少し広い視野で見えていくという必要があるという指摘だったかと思うが、会議でいろいろ議論し方向を定めていくこととしたい。

#### 4 協働取組について

事務局から、資料 4-1,2 により流域の湧水、水質、水生生物について市民等と協働して実施調査及び地域の手賀沼に関する情報の発信と共有化、意識啓発を目的とする「手賀沼ホームページ」の作成についての基本的な考え方について説明。

（質疑等）

・田口迪夫氏（水と土・手賀沼の会）

連合会の団体では、それぞれ水質調査などを実施しているが、このような調

査では適切な専門家が是非とも必要である。私たちの場合は、地域の中学校の理科の先生など、地元詳しい方に参加してもらっている。ボランティアの取組により効果が上がるよう専門家の知識を与えてくれれば、一層効果的な調査ができると思う。良い人材を県の方でも集めてほしい。

大堀川や大津川では数回生物調査を実施しているが、沼よりも川の方が水がきれいで、様々な生物も見られる。それらの生物が沼にも生息できるよう、みんなの力を合わせて取り組んでいく必要がある。

- ・ 瀧千葉工業大学教授

協働調査については、何を目的とするのか少し理解しがたいところがある。

昨年の水循環の検討で、これまでのものの見方とドラスティックに変わったことは、陸域を含めた形での水循環を考えてきたことにある。この協働調査では陸域のことがどの程度まで含まれるのか見えない。例えば、斜面林や台地部分の環境も含めて調査していくことが今までの延長線にあると思う。その結果として湧水や水質の変化などがわかってくる。

水を調べることにどのくらいの意味があるかという話もあったが、水を通して生物を我々にとっての環境を見るという考え方でよい。そのことをこの協働調査でも明確にしておくべきと思う。

排水の量や質など暮らしや生産に関わるデータは特別の調査をしなくても得られるが、自然に関わる情報を知る必要がある。生物調査については、生まれて死ぬまでのサイクルが見えてくるような調査が望ましい。

- ・ 浅羽柏市環境部長

手賀沼浄化事業連絡会議の県及び関係市町村の共同事業として実施し、必要な費用を確保するとされているが、各自治体とも財政が厳しく新たな負担は難しい。手浄連の事業を見直し、一部削ってこの事業に当てるといったことか。

- ・ 事務局

夏の手浄連の会議で既定の予算の範囲内で実施することを提案し、基本的な方向については了解を得ている。従って、新たな負担を求めるものではない。

- ・ 佐倉会長

先ほど説明のあった事業計画も含め、全体的な方向についてもう一度ご意見等があれば伺いたい。

- ・ 小林節子氏

水循環の取組では水量がどのくらい回復するかが重要。河川流量など、データを取るのが大変だが、土木サイドや国交省など関係機関の情報等を整理し評価できるようにしてほしい。

水量回復には土地利用に関わる施策も重要となるが、本当にできるのかどうかも含め、是非考えていただきたいと思う。

- ・佐倉会長

ホームページを作成する中で、既存のデータはもとより、流量の変化など新しいデータを含むデータベースの構築が重要である。それにより現状と変化がわかってくる。

- ・下藤松戸市審議監

我孫子市で先日開催された市民ミュージカルや環境学習の催しでは、手賀沼の再生をテーマとしていた。このような取組も関連するものとして、もっと取り上げていくべきと思う。

- ・我孫子市（手賀沼課）

市では、そのほかに船上学習や教育委員会などを通じて意識啓発を図っている。事業計画では漏れている部分もあり、今後は漏れなく載せていきたい。

- ・米倉手賀沼土地改良区理事長

計画資料の沼・河川の水質データはどこが実施した調査か。土地改良区でも独自の調査を実施しているが、統一的に実施することにより経費の削減を図ってもらいたい。

- ・事務局

県や国・市町村が公共用水域の水質測定を実施している。土地改良区も含め、どこでどのような調査を実施しているか把握した上で、かち合う部分は整理するなどの検討をしていきたい。

- ・米倉手賀沼土地改良区理事長

昔は湧水を水田に水を引き稲作をした。現在は湧水が流れる水路には雑排水も流れ込み、メダカなどの生物も見られなくなった。魚を再生させるには、雑排水と湧水を分離する必要があるが、現実的には難しいだろう。

- ・瀧千葉工業大学教授

湧水の水量と水質の話が出たが、陸域の状況がどうなっているかに大きく影響される。住宅開発などにより小川が雨水排水路のようになり、雨が降ると一時的に水量が増え、晴れると水量が減る状態になっている。昭和 30 ~ 40 年代の環境（湧水）を取り戻すには、林や緑地を取り戻すのか、あるいはそれに代わるような何らかのプールのようなものをつくり沢や谷津田などに湧水を回復させるのか、そのようなことを考えていく必要がある。

## 5 その他

事務局から、資料 5 により本年度県が作成する啓発パンフレットの構成案等について説明。

( 質疑 )

・ 米倉手賀沼土地改良区理事長

水田では水質が汚濁した手賀沼の水を利用することにより浄化に貢献していることも記述してほしい。

・ 豊嶋我孫子市環境生活部長

今まで手浄連でもパンフレットを作成してきたが、各戸配布まではできなかったので期待している。内容については、担当課に持ち帰り意見があれば申し上げたい。

・ 佐倉会長

今回推進会議が初めて開催されたが、この会議では計画の事業・取組を評価し次の取組に繋げていくことが使命である。取組の評価には基礎的なデータを増やしていくことが重要であり、参画された方々のご協力をお願いしたい。

閉会